平成 30 年度　京都市立銅駝美術工芸高等学校　学校経営方針

平成 30 年 4 月 2 日
校長　吉田　功

京都市立高等学校の学校改革が進む中、平成 29 年(2017)3 月に「京都市立芸術大学移転整備計画」が発表され、2023 年には京都市立芸術大学が京都駅東部崇仁地区に全面移転されるのに合わせて、本校も同地区に移転することが明らかにされた。

すでに本校は、平成 27 年度末に「将来構想のまとめ」を策定し、長期的なビジョンを立てながら中期・短期に取り組むべき具体的な学校改革について検討を重ねてきた。明治 13 年(1880)京都府画学校として創立以来、美術専門教育に取り組んできたその歴史と伝統を誇りとしつつ、社会情勢が激しく変化し、グローバルな規模でひと、もの、情報が動く時代に、「観る」「感じる」「考える」「表現する」というアートの営みの意義を深く理解し、広い視野をもって活躍する青年を育成していかなければならない。

平成 28 年度(2016)を学校力向上のための「改革元年」として位置づけてスタートさせた教育実践を今年度もさらに前進させ、「本校が美術専門高校であること」と「本校のような美術専門高校があること」の重みをしっかり踏まえたブランディングの再構築を目指す。学校移転までの 5 年間の間に、高大接続改革として「高校生のための学びの基礎診断」「大学入学共通テスト」が実施され、学習指導要領が改訂されるという大きな改革に直面する。これらに関する校内での研究と実践の体制を整え、本校を志願、入学してきた生徒ひとりひとりの希望と願いをしっかり受けとめ、力を引き出し、大きく成長させて進路実現に導く取り組みを組織的に取り組まなければならない。そのために、今年度、以下の方針と重点課題を示す。

＜学校経営方針の柱＞　　信頼と共感の醸成　　対話と協働による実践

＜学校経営の基本方針＞

(1) ５年後の学校移転を見据えたビジョンのもと、学校力向上のため、豊かな教育実践を進める。
(2) すべての教職員の個人の力を、組織的な学校力として機能させ、“チーム学校”で取り組む。
(3) すべての教職員が学校運営に参画する意識を高め、課題を共有した校務の連携・協働をはかる。
(4) 学校のあらゆる教育活動を、ねらいと目標を明確にして実践し、評価をふまえた改善をする。
(5) 教職員が生徒と関わる時間を大切にするとともに、教職員の働き方の改善に取り組む。

＜指導を進める上での重点＞

(1) 生徒の学びのモチベーションを高め、ねらいと目標を明確にした「わかる授業」、「主体的、対話的で深い学び」を計画的に実践し、学力と実技力を向上させる。
校内 WiFi 環境、ICT 機器を効果的に活用した教育活動を進める。
(2) 美術工芸の専門高校としての専門力の向上とともに、社会とつながる多様で多角的な視点をもった普遍的な学力の向上をはかる。
(3) 日常的に生徒をよく観察し、生徒のニーズや課題を的確に掌握する。気になる生徒、困りを抱えた生徒、課題のある生徒の情報を共有し、時機を逸することのない組織的な対応を行う。
(4) 生徒の自主性・自律性を高めるとともに、生徒自身が自己の心身をコントロールする力、他者とコミュニケーションをとりながら協働して課題解決を目指す力を育成する。
(5) 集団の中で自他を尊重する意識、ルール、モラルを疎かにしない態度を育てる。いじめや暴力など人権を傷つける行為を絶対に許さない指導を進め、人権文化を高める。